

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

ミナミトゲヘリカメムシによる果樹の被害（技術情報第3号）について（送付）
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考にご活用ください。

記

県内の一部の果樹園地（カンキツ、カキ）でミナミトゲヘリカメムシによる被害が発生している。

本虫は、ヒノキやスギで増殖する一般的な果樹カメムシ類と異なり、クスノキ科で増殖する。果樹園地での被害発生時期が他の果樹カメムシ類と異なる可能性があるため、園地観察による早期発見に努める。

1 発生状況

- （1）令和8年5月に県央から県北地域にかけて、一部のカキ園（太秋）でミナミトゲヘリカメムシ成虫の寄生および果実被害が確認された（写真1、2）。発生園内の葉には産卵も確認された（写真3）。いずれの発生園地でも周辺の果樹園には発生しておらず、局所的な被害に止まっている。
- （2）ミナミトゲヘリカメムシは、県外ではカンキツやカキの害虫として知られている。県内では、過去の日撃情報から数年前よりカンキツで発生していると推測されるが、明確な被害が認められていなかった（写真4）。今般、県内では初めてカキ園での発生と世代交代が確認された。

2 生態および被害の特徴

- （1）本虫は、南西諸島・九州・四国および本州の太平洋沿いに関東まで分布している。主な寄主植物はシロモジやクスノキ等のクスノキ科であるが、越冬場所や発生回数等の詳細な生態は不明である。沖縄県ではシークワーサーでの繁殖と年2回（春と秋）の発生が報告されている。
- （2）農作物では、カンキツでの被害が一般に知られているほか、他県の報告によると、カキ、スモモ、アボカドも加害する。ウンシュウミカンでの被害は果実の異常着色や落果、カキの幼果では加害部の表面が褐色に変色して窪む。九州での被害は雑木林周辺の園で認められ、園地内の発生は局所的で数本の樹が集中的に加害されやすく、ウンシュウミカンでは6月と9～11月、カキとスモモでは6月に果実の被害が発生するとされている。

3 防除対策

- （1）本種は局所的に発生しやすく、一般的な果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）と飛来源が異なることから、雑木林に近接した樹を中心に園地を見回り、早期発見に努める。

- (2) 果樹カメムシに登録のある薬剤の効果が期待できるので、果樹カメムシ類と同時防除する。
- (3) 農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、登録がある農薬を使い、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守する。また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努める。

※ 予察灯とフェロモントラップにおける一般的な果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）の誘殺状況については、病虫害防除所のホームページ (<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>) に掲載し、随時更新していますので、ご参考ください。



写真1 カキ（太秋）を加害する成虫



写真2 カキ（太秋）の被害果



写真3 卵塊からふ化した幼虫
被害発生園でカキの葉に産卵されたもの



写真4 交尾中の成虫
令和6年4月17日撮影、カンキツ（不知火）

熊本県病虫害防除所
(熊本県農業研究センター生産環境研究所内)
担当：山田・江口 TEL 096-248-6490